

戦争を無くすために

古堅中学校 三年 六組 松田 盛志

「慰霊の日」とは、一九四五年六月二十三日
に日本軍の沖縄戦での組織的戦闘が終結し
たということ、琉球政府及び沖縄県が定め
た、沖縄戦の戦没者の霊を慰さめて平和を祈
る日のことです。

戦争は今でも色々な国で続いています。そ
して、今もなお多くの人が命をうばわれてい
ます。戦争で手や足など体の一部を失った人、

家族や友人など大切な人を亡くした人、極度
の緊張から戦争後遺症に悩まされている人な
ど、戦争は多くの人に苦しみをたらしてい
ます。

そんな残酷な戦争が、今僕達の住んでいる
この沖縄で実際に起きたのです。この戦争で
は二十万人余りの人が犠牲になり、その中に
は民間人も入っていました。民間人がまきこ
まれたのには二つの理由があります。一つは
日本軍が民間人を守ると言いながら、実際は

がマに避難していた民間人を追い出し、自分達の拠点にしたこと。二つ目は国によるまちがった教育を受けたために補虜になっただら殺されてしまおうと信じこんでしまったことです。そのことがシムクがマとチビチリがマというまったく正反対の結果を生むことになりました。アメリカ軍の呼びかけにシムクがマでは、竹槍隊が槍を構えましたが、がマの中には、まちがった教育を受けていないハワイ帰りの人が二名いて、その人達は竹槍隊を落ち付か

せ、がマを出て、アメリカ軍と話したおかげで、全員助かりました。一方チビチリがマでは、シムクがマのようにまちがった教育を受けていない人がいなかったため、ほとんどが自決し、生き残ったのは百四十名中五十七名でした。同じ地域のがマでも、まちがった教育を受けているかいないかでこんなにちがいがあつたのです。

さらに日本は、アメリカ、イギリス、中国後にソ連も参加し、発表されたポツダム宣言

の受け入れをおくらせたため、昭和二十年、
 広島は八月六日の午前八時十五分に、長崎は
 八月九日の午前十一時二分にアメリカ軍のB
 29戦闘機によって、原子爆弾が落とされるとい
 う悲劇を招きました。それによって、日本は
 八月十四日にポツダム宣言を受け入れました。
 この原爆投下で多くの人が放射能を浴び、原
 爆症という病気になってしまい、今でも苦し
 み続けています。このように、人々に苦しみ
 をもたらす戦争を無くすにはどうすればいい
 でしょうか。

僕はこう思います。戦争は良くない事だと思
 うだけでは何も解決しません。地上戦を経
 験した沖縄の人達が先頭に立って、その思い
 をまずは全国に、そして世界に広めなければ
 いけないと思います。例えば平和集会などの
 平和行事に参加したり、憲法九条を無くさな
 いために政治に興味を持ち、大人になっ
 たら積極的に選挙に参加することです。でも人は
 戦争の怖さを時が経つにつれて、忘れてしま

い、また戦争を起こしてしまいかもしねませ
 人。ですから僕達一人一人が平和に対して感
 心を持ち続けて、この平和をこわす事がない
 ように、政治や世界の国々のできごとは無感
 心にならない事が戦争の無い世界に近づくた
 めのやるべき事だと思えます。戦争がすぐに
 無くなる事は難しいと思えますが、声に出し
 続けていく事が大事です。そして僕達がもう
 一つやらなければならぬ事があります。そ
 れはこれから産まれる子供達に戦争の怖さを
 教える事です。これをしなれば、子供はま
 ちがった教育をされると戦争が悪い事と思わ
 ず、戦争に参加すること疑問をもたずに尊
 い命をおとしてしまいます。僕達が地道にこ
 の二つを一生懸命にやり続ける事が、戦争の
 無い平和な世の中を作り上げるための一歩に
 なります。もう二度とこのような残酷な戦争
 をしないために、一人一人が声を上げて、戦
 争反対と、いつまでも訴え続けることが大切
 だと僕は思えます。